

ミナミイワトビペンギンが誕生しました

凍結保存の精子を用いた人工授精が成功した場合、世界初となります

大阪市港区の海遊館では、平成 30 年 6 月 13 日（水）～6 月 18 日（月）にかけて、一般公開中の「フオーランド諸島」水槽で、ミナミイワトビペンギンの雛が 3 羽誕生しました。微笑ましい子育ての様子をご覧ください。

今回誕生したミナミイワトビペンギンの雛は、全て人工授精を行った親鳥から産まれました。海遊館では 2016 年に液状保存の精子を用いて、本種の人工授精に世界で初めて成功しており、本年 6 月 16 日（土）に誕生した雛の親鳥には、さらに発展させた試みとして、凍結保存の精子を用いた人工授精を行いました。人工授精の成否は、卵殻の内側に付着した血液を用いた DNA 検査と海遊館で飼育している本種の行動観察を行い、約 1 ヶ月後に判明する予定です。人工授精が成功していた場合、本種における凍結保存の精子を用いた人工授精として、世界で初めて成功したこととなります。

現在、親鳥が熱心に子育てをしています。雛は親鳥のお腹の下に隠れていますが、親鳥が動いたタイミングなどに顔を出し、ピーピーと鳴く様子をご覧ください。



ミナミイワトビペンギンの雛（6月14日朝撮影）

【取材のご案内】

雛は親鳥のお腹の下に隠れているため、体重測定時の撮影をおすすめしております。

取材ご希望の際は、事前にご連絡ください。

平成 30 年 6 月 22 日以降 10:00 より体重測定

連絡先 海遊館広報チーム 06-6576-5529

◆今回誕生した雛と人工授精の実施について

	産卵日	孵化日	体重 (g)	
			孵化時	6月20日時点
①	5月12日	6月13日	74.7	318.8
②	5月13日	6月16日	60.6	99.8
③	5月14日	6月18日	65.4	83.9



今季は4月末～5月初旬、葛西臨海水族園（東京都）で飼育しているミナミイワトビペンギンから採取し、液状または凍結保存の処理後に輸送した精子や、海遊館で飼育しているミナミイワトビペンギンから採取した精子を用いて、海遊館の計4羽のメスに対して人工授精を実施しました。

孵化日	親鳥	使用した精子	人工授精の実施日	備考
6月13日	R301	液状保存	5月3日	
6月16日	R300	凍結保存	5月7日、5月9日	世界初の可能性
6月18日	R203	直前に採取	5月5日、5月9日	
抱卵中	R153	液状保存	4月29日、5月3日	
		凍結保存	5月5日、5月7日	世界初の可能性

◆凍結保存の精子による人工授精の意義について

人工授精の技術を確立し、技術が普及することで、国内外の水族館や動物園におけるペンギン類の繁殖を向上させることができます。さらに精子の凍結保存の技術が確立できれば、半永久的に凍結された精子（遺伝子）を保存できるため、絶滅の恐れがある野生下のミナミイワトビペンギンの種の保存に貢献することができます。

◆協力：葛西臨海水族園 電話：03（3869）5152 代表

日本最大級の屋外展示場「ペンギンの生態」で、フンボルトペンギン、フェアリーペンギン（別名コガタペンギン）、イワトビペンギン、オウサマペンギンの4種を飼育している。特に、フンボルトペンギン、フェアリーペンギンとイワトビペンギンの飼育数は国内最大で、(公社)日本動物園水族館協会が行なっている希少種繁殖の取組みでは、フンボルトペンギンとフェアリーペンギンの血統管理を担っている。

◆ミナミイワトビペンギンについて

フォークランド諸島など南極周辺の島々に生息し、体長は約50cmでペンギンのなかでも小型の種。岩場を飛び跳ねながら移動することからこの名前が付いた。目の上にある黄色い冠羽が特徴。沿岸の岩場の小石や雑草で巣を作り、メスは1回の繁殖で通常2個の卵を産む。ペンギンの中では気性がやや激しい。小魚やオキアミなどを食べる。IUCN（国際自然保護連合）が定めるレッドリストにて、絶滅危惧種に指定されている。

海遊館のミナミイワトビペンギンの飼育総数は18羽（メス7羽、オス11羽）。